

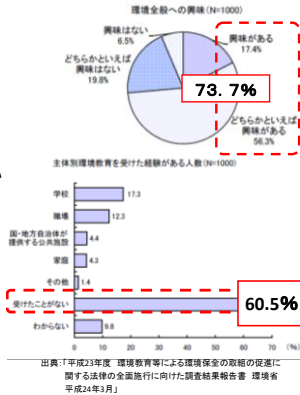


あいちESDポイント ～貯め得、知っ得、やって得～

グループ名：生涯環境学習チーム
 メンバー：馬野兼光、菅澤景一、早藤雄二郎、藤井美佳
 チューター：窪田光宏、大川秀樹

現状の把握（課題認識）

- 環境には興味があるものの実際に環境教育を受けた人は少ない
⇒ **大人の環境への知識はまだ低い**
- 環境情報がどこにあるのか分からない情報が集めにくい
⇒ **情報の一元化が出来ていない**
- 中小企業では時間とコストの面から環境教育を行いたい
(思いがあっても参加・行動し難い)
⇒ **環境行動には便益も必要(重要)**



2030年に向けての提言の概要

- 大人でも環境教育を受けやすい
- 環境教育の情報を一元化することができる
- 便益を与えることにより中小企業でも取り組める



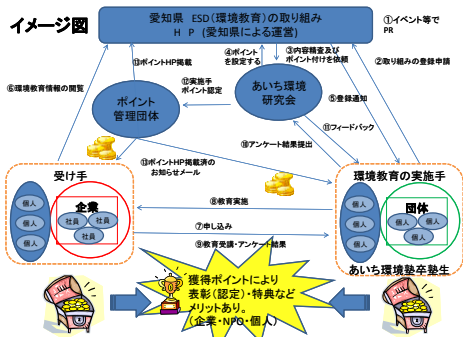
“貯め得、知っ得、やって得”

「ESD*ポイント制度」

*特に環境教育に特化

2014年のESD国際会議で愛知県の取組みとして報告し、県民、企業にも周知をはかる

提案の内容



- 環境教育の実施に伴い、教育の**実施手および受け手にポイント**を付与
- ポイントを貯めると、ポイント数に応じて**便益**を享受

個人：表彰、施設利用料の割引など・・・
 企業：表彰、融資・補助金優遇、広告ブース

◇特徴

- 個人のみならず**企業ポイント**を設定
例：企業Point=社員のPointの和+企業として環境教育に関わった追加Point
- 低炭素・資源循環・自然共生などの各分野に亘る環境教育を受講
- 学ぶだけでなく教育をするなどの環境行動を実施
⇒ **ボーナスポイント加算!**

提案実現のための具体的な取り組み(アクションプラン)と実現可能性

各主体の役割

愛知県	参加登録受付、環境教育情報発信 HP運営制度のPR
実施手	環境教育の作成・実施
受け手	環境教育の受講、アンケート記入
あいち環境研究会	教育内容の審査、ポイントの決定 実施手へのフィードバック
ポイント管理団体	参加個人、企業のポイントの管理

- 『ネットあいち』(会員登録)
- 『EXPOエコマネー制度』(ポイント管理)
- 『あいち環境研究会』(ポイント設定) など、既存の組織を活用

2013年	本システムの稼働
2014年	ESD会議で本システムの報告
2016年	あいち環境賞に、ポイントランキング上位者(個人)、及び優秀企業の表彰追加
2018年	第2ステップ:各主体(県民、行政、企業、NPO)との連携に対するポイント制の導入
2030年	本システムを使ったESDが国際モデルに

2013年にシステムを稼働その後、企業・NPO等実施手同士が連携したイベントにもポイントを加算するなど、2030年に向けて教育中心から行動中心に移行

波及効果

- 中小企業でも率先して環境教育に取り組む⇒教育を受ける人が増える
- ESDの認知度アップ
- 円滑なコミュニケーションによる教育実施団体間のネットワークの構築
- 環境教育をベースにした新規ビジネスチャンスの開拓
- 県の施設利用率のアップ(例：もりの学舎)
- あいち環境塾の塾生の更なる質の向上

